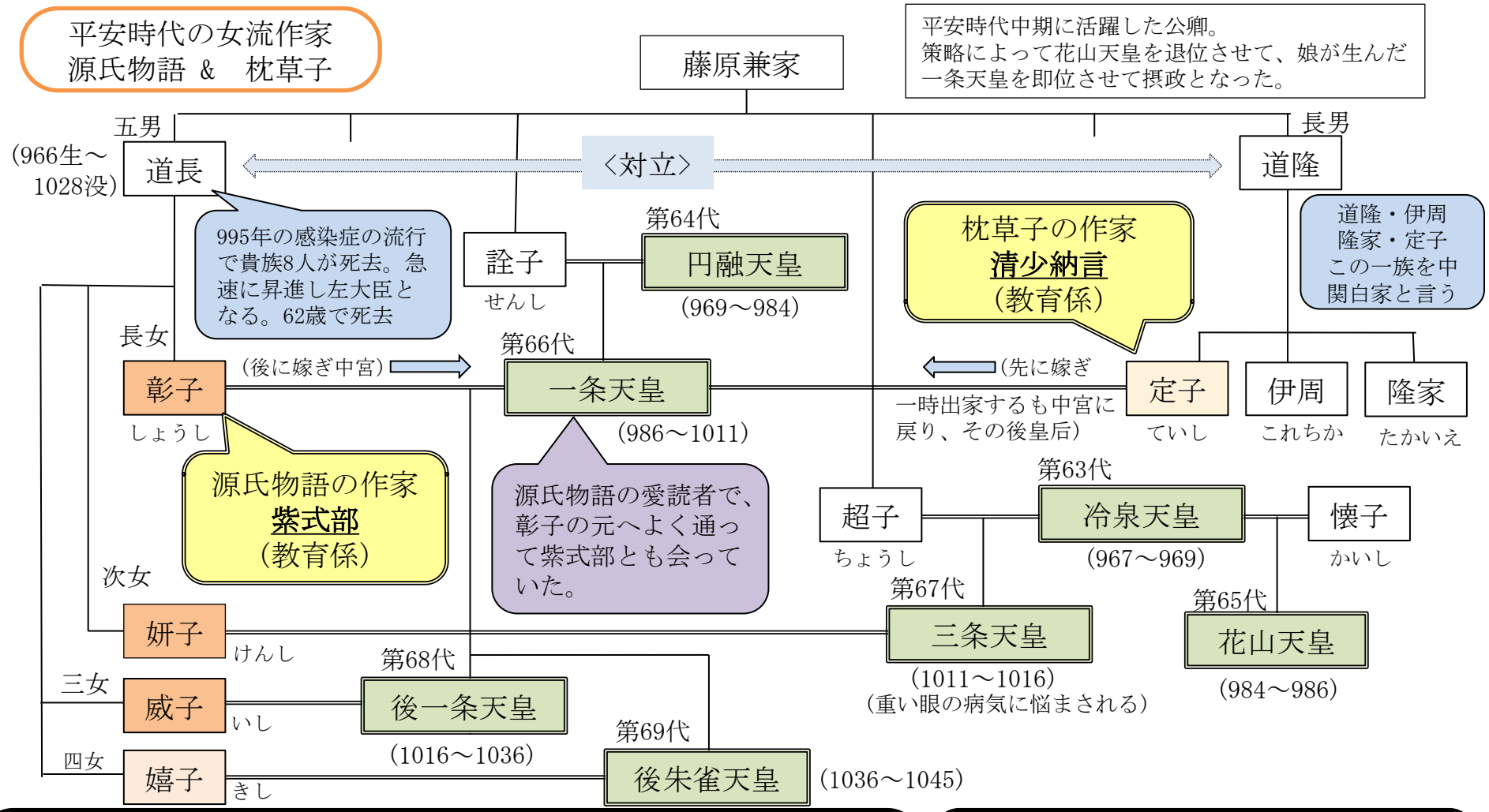
平安時代の女流作家
源氏物語 ＆ 枕草子



紫式部(生没年不詳)　源氏物語の作家
世界最古の長編小説(全54巻)　長編小説/平安中期作

皇子の子ながら臣籍に下った(※)美男子「光源氏」とその子供、孫の時代、約70年間を描く。光源氏は成長後、様々な女性と恋愛を重ねる。亡き母と似た父の後妻、憧れの人に似た少女、年上の未亡人など。その後、左遷を経て京に戻り、太政大臣に上り詰めるが、最愛の女性に裏切られ、最後は出家する。
(※)臣籍降下（しんせきこうか）とは、皇族がその身分を離れ、姓を与えられ臣下(しんか、配下・部下・家来などの意味)の籍に降りることをいう。

清少納言(966年頃～1025年頃)
枕草子の作家　随筆/平安中期作

宮中生活での体験や出会った人々についての感想を、平仮名を中心として和文で綴った随筆集(305段)。鋭い感性と観察眼で自然や人物を切り取ったり、定子との中宮生活を回想するなど、多彩な内容がある。知的で軽妙、明るい作品が多い。